

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 大竹市立大竹中学校
教諭 馬越 幸子

- 1 日 時 平成 27 年 7 月
- 2 学 級 第 2 学年 3 組 後半（男子 11 名 女子 6 名 計 17 名）
- 3 題材名 衣服の補修を通して生活の中で活用できる技能を身に付けよう

4 題材について

○題材観

近年、グローバル化、情報化などの急激な社会の変化に伴い、私たちの衣生活における状況も変化してきている。ファストファッションに代表されるような大型衣料品店や、インターネットなどの通信販売を利用することにより、ファッション性が高く安価な衣服を手軽に購入できるようになってきた。しかしその一方で、日本で廃棄される衣服は年間約 100 万トンにも及ぶ。衣服を大切に最後まで着古すといった感覚も薄れ、衣服の補修が必要な状態に出会った時、わざわざ補修をしなくても廃棄して新しいものを購入すればよいといった意識がその背景にあるのではないかと考えられる。

本題材は学習指導要領の内容の「C 衣生活・住生活と自立（1）衣服の選択と手入れ」「ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。」を基に設定した。衣服を快適に着用するために、補修などの手入れが必要であることを理解し、衣服の状態に応じた適切な補修ができるようにするとともに、衣生活の自立を促し、ものを大切にすることを育む上でも意義のある題材だと考える。

○生徒観

本校生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。基礎的・基本的な縫製の技術については、小学校で手縫いとミシン縫いについて学習している。中学校第 1 学年では、ミシン縫いを用いてエコバックの製作をしている。しかし、衣服の補修に関しての事前アンケートでは、「衣服の補修が必要な時にどうするか」という問いに対して、「自分で直す」と回答した生徒は、9%しかおらず、75%の生徒は、衣服の補修を誰かに頼っているという実態が明らかとなった。また、その主な理由として、「上手にできる自信がない」、「方法がわからない」などを挙げており、衣服の状態に応じて適切な補修方法を選択したり、補修を行ったりする技能が身に付いていないと考えられる。

○指導観

指導にあたっては、生徒が衣服の補修に関心をもち、実生活を想起しやすい課題に取り組ませることで、課題意識や見通しをもって学習に取り組めるような授業を目指す。そのために、題材の最初と最後にパフォーマンス課題を位置付けた学習展開とする。まず、第 1 時でズボンの補修をするというパフォーマンス課題に取り組ませ、課題意識や見通しをもたせる。第 2・3 時では基礎的・基本的な縫製の技術の習得過程において、単なる知識や技術の伝授ではなく、より良い方法について生徒同士で意見を出し合い、つまずきを教え合うことで確実な基礎的・基本的な縫製の技術の習得を図る。第 4 時ではズボンの小型のパーツを使用し、衣服の構造や縫い方について理解を深めさせる。第 5 時では、シャツの補修を通して、簡単な衣服の補修ができるようにする。

次 時	主な学習活動
一	1 パフォーマンス課題への取組 ・ズボンを補修し学習の見通しと課題意識をもつ。
	2 基礎的・基本的な縫製の技術の習得（既習事項の確認） ・提示された手縫いやミシン縫いの失敗例から、よりよい方法についてグループで意見を出し合い、全体で確認する。 ・生徒同士がつまずきを教え合いながら、チェックリストを使用し相互評価を行う。
	3 基礎的・基本的な縫製の技術の習得（まつり縫い） ・制服とジーンズの裾の違いを比較し、まつり縫いの特徴についてまとめる。 ・映像を観ながら、まつり縫いを行う。 ・まつり縫いをした布をグループの中で見比べ、よりよい方法について意見を出し合い、全体で確認する。 ・生徒同士がつまずきを教え合いながら、チェックリストを使用し相互評価を行う。
二	4 ズボンの構造や縫い方の理解 ・ズボンの小型のパーツを使用し、衣服の構造や縫う手順について知る。 ・様々な衣服を観察し、箇所による縫い方の違いやその理由を考え、衣服の構造や縫い方の理解を深める。 ・目的や状態に応じた適切な衣服の補修についてポイントをまとめる。
	5 衣服の構造や縫い方の理解 ・シャツとズボンの補修の共通点について考える。 ・簡単なシャツの補修を行う。
三	6 パフォーマンス課題への取組 ・学習したことを総合的に思考し判断しながら基礎的・基本的な縫製の技術を活用し、衣服の補修を行う。

そして、第6時では、学習してきたことを総合的に思考し判断しながら、第1時とは別のズボンを使用したパフォーマンス課題に取り組みさせる。これらを通して、生活の中で活用できる技能を育成できると考える。

5 題材の目標

- 衣服の補修に意欲的に取り組み、補修に必要な基礎的・基本的な縫製の技術を身に付け、補修の目的と状態に適した方法を理解し、適切に思考し判断して衣服の補修ができる。

6 題材の評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての 知識・理解
衣服の材料や状態に応じた衣服の補修について、関心を持ち、補修の課題に取り組みようとしている。	衣服の材料や状態に応じた補修についてより良い補修方法を思考し、判断している。	① 基礎的・基本的な縫製の技術を習得している。 ② 補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	① まつり縫いの特徴と縫い方を理解している。 ② 補修の目的と布地に適した方法について理解している。

7 指導と評価の計画（6時間）

次	学 習 内 容 (時数)	評 価					
		関	工	技	知	評価規準	評価方法
一	衣服の補修をしよう（1）	◎				ア 衣服の材料や状態に応じた衣服の補修について、関心を持ち、補修の課題に取り組みようとしている。	行動観察 自己評価表
	手縫いとミシン縫いの練習をしよう（1）			◎		ウ① 基礎的・基本的な縫製の技術を習得している。	チェックシート 自己評価表 練習布
	まつり縫いを習得しよう（1）＜本時＞			◎	◎	ウ① 基礎的・基本的な縫製の技術を習得している。 エ① まつり縫いの特徴と縫い方を理解している。	ワークシート チェックリスト 自己評価表 練習布
二	衣服の構造や縫い方について理解を深めよう（2）				◎	エ② 補修の目的と布地に適した方法について理解している。	ワークシート 自己評価表
三	衣服の補修をしよう（1）		◎		◎	イ 衣服の材料や状態に応じた補修についてより良い補修方法について思考し、判断している。 ウ② 補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	補修した衣服 ワークシート 自己評価表

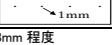
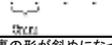
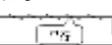
8 学習の展開

◇本時の目標 まつり縫いの特徴や縫い方を理解し、まつり縫いによる裾上げの方法を身に付ける。

◇学習の流れ（3時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意点（◇） ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への 指導の手立て	評価規準 【観点】	評価 方法
<p>1 裾のほつれたスカートの観察を通して、本時の課題を設定する。</p>	<p>◇ 教師が裾のほつれたスカートをはいて教室に行き、衣服の状態に応じた補修の必要性を感じさせる。</p>		
まつり縫いの特徴や縫い方を知り、まつり縫いができるようになる			
<p>2 ジーンズを提示し、まつり縫いとミシン縫いの違いを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の意見</p> <p>まつり縫い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表から目立たず、きれいな仕上がりになる。 <p>ミシン縫い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表からは目立つが丈夫である。 </div> <p>3 まつり縫いの見本布や映像を見ながら、まつり縫いをする。</p> <p>4 班ごとに上手に縫うポイントについて意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見本布や、自分や班の仲間が縫った布を見比べ、上手に縫うポイントについて意見をまとめる。 <p>5 上手に縫うためのポイントを全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 糸は一本取りがよい。 ・ 織糸を1～2本すくうとよい。 ・ 表側から見た縫い目の間隔は8mm程度がよい。 ・ 縫い目の形が揃っているとよい。 ・ 玉どめ、玉結びは見えないところに作る。 ・ 布が引きつらないように縫う。 </div>	<p>◇ 裾がミシン縫いされたジーンズと裾がまつり縫いされた自分の制服の縫い目を比較させる。特に、表から見た縫い目の様子、引っ張ったときの縫い目の強さに注目させる。</p> <p>◇ まつり縫いをするときには、見本布や手順を示した映像を準備し、それを生徒が自由に手に取って観察したり、映像を再生したりできる状態にしておく。</p> <p>◆ 生徒の手元で実際にやってみせ、針の運び方等を示す。</p> <p>◇ 意見が出にくい場合は、糸の取り方、縫い目の大きさや位置などの視点を与える。</p> <p>◇ なぜそうするのかという理由も一緒に考えさせる。</p>		

6 チェックリストの内容を確認した後、もう一度まつり縫いをする。

チェックリスト		評 価		
① 糸の取り方	一本取りで縫っている	A できている	B 途中から二本取りになっている	C 二本取りで縫っている
② 表側の縫い目	糸が目立たない 	A 目立たない	B ところどころ目立つところがある	C 全体的に目立つ
③ 表側の縫い目の間隔	8mm 程度 	A 8mm 程度の間隔で縫えている	B 広くなったり、狭くなったりしているところがある	C 全体的に広すぎたり、狭すぎたり、ばらつきがある
④ 裏側の縫い目の形	裏の形が斜めになっている 	A 斜めになっている	B 形が乱れているところがある	C 全体的に形が乱れている
⑤ 結び目の位置	玉結び・玉どめが折り目の内側にある	A 両方内側にある	B 片方だけ内側にある	C 両方外側にある
⑥ 全体の仕上がりが	引きつりが無い	A 全体的に引きつりが無い	B ところどころ引きつりがある	C 全体的に引きつっている

7 チェックリストを基に、まつり縫いの出来を、相互評価する。また、不十分なところを互いに教え合う。

8 第1時のパフォーマンス課題で用いたズボンのまつり縫いをする。

【手順】

- ① 数 cm だけズボンの裾をほどく。
- ② ほどいた糸端の始末をする。
- ③ まつり縫いをする。

9 本時を振り返る。

- ・ 自己評価表にまつり縫いの特徴や方法について分かったことを記入する。

◇ 上手に縫うためのポイントをまとめたチェックリストを配付し、まつり縫いの評価の観点を確認させる。

◇ 第1時における自分の縫い方を見直し、裾の適切な補修方法について考えさせる。また、本時で学習したまつり縫いの技術がズボンの補修に使えることを実感させる。

ウ① 基礎的・基本的な縫製の技術（まつり縫い）を習得している。【技能】

エ① まつり縫いの特徴と縫い方を理解している。【知・理】

練習布

ワークシート